

第7回ワーキンググループ 議事要旨

開催日時	平成31年3月20日（水）13時00分～15時00分
開催場所	全国都市会館
議 題	1 高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン改定方針について 2 後期高齢者の質問票について 3 平成28・29年度モデル事業の試行分析について 4 その他

議 事 要 旨

(以下、発言者の敬称略)

(1) 高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン改定方針について

- 意見なし。

(2) 後期高齢者の質問票について

- 薬に関することは、KDBシステムから把握するということであるが、OTC、置き薬等はどうやって把握するのか。
⇒保健指導等の際の詳細なアセスメントの中で把握する事を考えている。(事務局)
⇒市町村での実務の際に、把握漏れがないようにしていただきたい。
- 口腔の質問で、固いものを「半年前」から食べにくく…とあるが、現状を聞くのか、過去からの変化を聞くのか、歩行速度の変化を聞く質問では「以前から」となっているが表現の調整は必要ないか。
⇒基本チェックリストの項目を使っている。高齢者の歯科保健サービスの効果実証事業で検討された質問票でもこの項目を使っているの、その項目との整合性を配慮している。(事務局)
⇒「速度が遅くなったか」は比較しないと聞きにくい、「半年前」では高齢者が判断しにくいことから、このように尋ねているのではないかと思う。
⇒兆候をみるということで、「以前は」幅が広いので、「半年前」と比べた変化を尋ねるということではよいのではないか。
⇒事前に実施したプレテストでも、特に高齢者は回答が難しい様子はなく、スムーズに答えていただいている。(事務局)
- 後期高齢者の質問票（案）について、了承。
- この後3/28に予定されている「保険者による健診・保健指導等に関する検討会」に報告させていただく。

(3) 平成28・29年度モデル事業の試行分析について

- 栄養の取組について、平成28年度と29年度参加者のBMIがかなり違う。2群でこれだけの差が出ると、サンプリングバイアスが大きかったということには留意する必要がある。
⇒対象者として、低栄養、過体重の群が分けてあり、29年度には低栄養ということに着目されるようになってきたのではと思われる。
⇒自治体の取組が変わってきたということであろう。言葉については誤解がないように記してほしい。

- 栄養の取組について、BMI の状態に応じて 3 群に分けて分析しているか。
⇒3 群に分けて実施している。(事務局)
⇒BMI の高い人についても低栄養にならないような指導が必要な場合がある。高齢者の場合、身長が低くなって BMI が高くなる人もいる。
- 医療費分析を市町村で行う際、医科については、医療費が下がっている要因が想像しやすいが、歯科については、レセプトの内容等を含め、なぜ良くなったのかをほぼ見ることはできない。歯科についても分かるようになると良い。
⇒歯科については(状態把握のための)歯科健診受診率が低いのが実態である。歯科健診結果の電子化も進んでいないため、KDB システムへの対応も今後の課題として認識している。(事務局)
⇒医科については薬剤の内容である程度見えてくるが、歯科レセプトでは処置内容から、歯周疾患なのか、義歯等なのかを判断する方法しかない。
⇒医科についても、内容や保健事業と関連した結果なのかについて明確に分かっているものではない。
- 28、29 年度の両年度ともやっている自治体やそれぞれ(単年度)しかやっていないところがあるが、28、29 年度でベースラインの違いについては把握しているのか。
⇒ベースラインについては把握している。両年度実施した自治体で、基準値を変えた自治体もある。(事務局)
- 今回の分析にあたり、共通指標で集めているのはいいが、対象者の抽出基準が自治体により異なっており、その差もかなり大きい。市町村で何が一番効いたのかが大切である。結果としてはよかったが、厳しい基準のところがよくくなっていると、それが全体の平均値を下げていることもある。
- もう少しデータが増えてくると、基準値の違うグループ間で、年間の医療費等の変化についての分析が必要となるであろう。
- 検定については、前後での検定を行っているが、引き続き専門家の意見を聞きながら進めていくと良いであろう。
- 資料 4 の p7 にある、自治体の全体像を見ることが大切だというコメントを皆からいただいている。住民に対するカバー率の視点が非常に大切であると思っている。
- 合併症の発生状況についてもデータの取り方に課題はあるが、どのようなことが予防できているか、口腔の指導をやると、誤嚥性肺炎が減ったというような評価もこれからできていくと良いと思う。
- 進捗管理表があることによって、モデル事業も進んだという実態もあり、評価指標を予め設定しないと評価が難しいということも分かった。層別化分析については今後対象数が集まるようになるとよい。
- 今後、これらのデータでさらに分析を深めていく予定があるのか。
⇒今回のデータについてはいったんこれで分析は終了としたい。(事務局)
- 来年度はモデル事業ではなくなるのか。
⇒モデル事業は平成 28、29 年度のみで、平成 30 年度からは本格実施として、低栄養防止・重症化予防等事業に補助している。一体的実施は平成 31 年度からの実施となっている。(事務局)
- 本格実施の自治体のデータ分析を考えているのか。
⇒モデル事業終了後はデータ収集しておらず、特段予定はしていない。(事務局)

⇒今後、一体的実施でも、市町村ごとに実施する事業は異なる。その前提で個々の市町村での分析をどうやっていくかをガイドラインに書き込んでいくことも必要ではないかと考えている。(事務局)